

# 教授会ニュース

No 23

昭和44年11月4日

1. 10月28日「スト解除」を決議した新6回生について、11月2日旧2回生、5日には旧3回生が同じく「スト解除」をそれぞれクラス会議で決定した。なお、11月5日まで授業を放棄していた新入生は6日から授業を開始したが、大学民主化に関するクラス討議をその後主として行ない、13日から17日に至る向の授業を放棄するとの決議をクラス会議で行った。<sup>阿倍野キャンパスにおいて</sup>他方、荒廃していた学の内外の修復、整備も逐次進歩し、機動隊駐留下とはいえ学内秩序も一応維持されているので、11月4日以降学部学生が全員入構出来るようになった。在来から病院内においては職種それぞれの識別を容易にするために、所定のバツゲを着用するのが常である。ことに9月30日以来、学内秩序を維持するためにも腕章、ユニホーム、バツゲ等の着用を励行して来た。さらに11月1日以降バツゲ(氏名札)を①教員、②院従業員、③研修医、研究生、大学院学生、④医学部学生、⑤付属厚生学院学生、⑥院内業者勤務員等がそれぞれ着用することになった。これは、あくまでも部外者のほしいまゝな入構を阻止して学内秩序を維持するのがその目的であり、秩序維持のために他のすべての構成員にも求められている最少限の協力要請である。
2. 学部学生の「スト解除」決議と入構にひきつづき授業再開にそなえて、当面の学生受入態勢をととのえるため、臨床各教室ならびに病院中央施設(麻醉科、中検、歯科、薬局等)の代表者教員と医学部長事務取扱らとの証合が継続実施されている。この「教室代表者会議」は毎週火曜日午後2~5時の間定期的にもたれるようになった。これには各教室の代表者またはその代理に当る教員の出席するものがその大部を占めているが、なお複数の連絡者あるいはオブザーバー教員のみが参加する教室も若干あつて、すべての教室の態勢がまだ一致していない。回を重ねるにともない、この会議が教室代表者のみから構成されて教員層の意思が集約され、スムーズに運営されることを期待する。この会議の公開向題や記録のとり扱いなどについても逐次討議をつづけて結論にみちゆく予定である。
3. かねてから医学部学生の一部によつて提唱されていた「学生大会」を開催するため、約150名の学部学生らが、11月12日午後1時病院<sup>本館</sup>玄関前の道路上に集合し、所定のバツゲを着用しないまま、東館玄関で行なわれていた検問を突破して地階に進入、ヤ1臨床講義室の開放と使用を迫り、ついにヤ2臨床講義室前廊下の施設を破壊するに至つた。このようなことは、学内秩序の回復と維持のためにあらゆる努力が捧げられている今日、きわめて遺憾なことである。もともと、バツゲの着用は学内秩序を維持するために守ることを求められた最少限のルールであり、この励行が秩序回復の第一歩である。また、構内各玄関口で行なわれている検問は、やはり大学が自主的に行なっている秩序維持の一手段である。しかも、これら一連の学内規律を破るたのんで無視、突破するような行爲は、学内秩序の回復とその維持のためにこれまで積みかさねられた努力を水泡に帰するに等しいものである。また、今回の「学生大会」開催の会場として使用を求められたヤ1臨床講義室は、周知のごとく病院内にあり、もともと患者供覧等の臨床教育に用いるために設けられているものであつて、とくにその内外の静謐と清潔を保持する必要があるものである。それゆゑ、甬道の当初からその使用規定を設けて保全につとめて来た。しかも1年に近い紛争の過程のなかでその一部が破損されて、修復を要する箇所がなお多くあること、また、秩序回復の目的から、臨床講義室の当初の使用規定を守りたいなどの理由のもとに、通常の会議や集会のためにこれを使うことは見合わせていた。この主旨によつて今回の「学生大会」のための使用要請もいれられなかつたわけである。またこれにかつて、基礎医学舎構内あるいはほぼ修復の終つた基礎医学講堂の使用を懇望したしだいであり、また、医進課程の学生諸君の入構にそなえてバツゲが用意されていた。

今回の「学生大会」には相等多数の学部学生諸君が「スト解除」をふまえて集合し、病院内進入ののち各所に集結して、クラス討議を行なつたが、これは授業再開をめざす意志の表示があきらかに看取されることであつた。それゆゑ、一定の予備交渉の糸口を経て、学生の代表部分と医学部長事務取扱らがあつたて話し合いの場を設定し、学生諸君の真摯な要望に於けるはずである。ともあれ、学内民主化を促進するためには、当然、すべての構成員がルールを守つて秩序ある行動に集結することがまずなによりも大切であり、この医学部学生諸君はもとより医学部構成員が一致して協力をおしほしめよう望む。